



地域の子育て力を育てる分科会 の報告・提言(案)



分科会での課題と解決に向けた方策の整理

	課題	課題の詳細・明確化	解決に向けた方策(下線は注意点)	施策・取組みの例など
①	住民同士の信頼に基づく地域の見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動・取組みを住民が知らない ・(若い)保護者が孤立傾向 ・交流の機会が少ない ・住民同士の助け合い・信頼関係が限定的 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子と地域住民との交流の機会の創出 ・地域住民による子どもの見守り方法の工夫 ▶<u>参加しやすい工夫、地域のつながりの構築を意識</u> ▶<u>面倒臭いものは続かない</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と子どもの交流会(松ノ木) ・登下校の時間帯にあわせて地域住民が戸外の用事をする ・散歩の際に付ける腕章(星見ヶ丘)
②	地域における安全・安心の居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の不足(児童館、放課後児童クラブ) ・指導員・ボランティア不足(放課後子ども教室、放課後児童クラブ) ・特に小学校1・2年生、長期休暇中のニーズが高い(放課後児童クラブ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館の増設 ・放課後児童クラブの運営支援 ・家族・親族で助け合える工夫(祖父母の支援) ▶<u>学校の空き教室等、既存の施設を活用</u> ▶<u>児童館、学童保育、放課後子ども教室は連動しているので、現在の利用状況、利用目的の詳細・真意、地域性等を把握し、地域内の補完関係を整理する</u> ▶<u>行政が担保すべき責任(安全面)と付加価値部分(教育的な質)の線引き、利用者負担との整合性をチェック(主に放課後児童クラブ)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティア制の採用(放課後子ども教室) ・豊田市は保育園のような形で自治体が運営(放課後児童クラブ) ・三世代同居・敷地内同居、近隣に居住する場合の優遇税制
③	地域のつながり・交流のきっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で自主的活動している人はいるので、それらをつなげること ・若い保護者が地域活動に消極的 ・やってもらいたいばかりで、「お互い様」意識が足りない ・保護者のモラルの低下 	<ul style="list-style-type: none"> ・肩肘張らないチームがあると参加しやすい ・交流やつながりを深める工夫が必要 ・同世代、保護者同士など共通点のある間柄での交流 ・幼稚園・保育園などのコミュニティが基本になる ・地区にこだわらず、いろんな人を呼び込む ▶<u>中身を精査して根底(目的)をはっきりさせる</u> ▶<u>地域で大人と子どもが名前を呼び合えるようなイベントを開催</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・立教の運動会、星見ヶ丘の夏祭り ・園のイベントに地域住民が参加(オーストラリア) ・地域や関係者が協働するための運営委員会の設置

	課題	課題の詳細・明確化	解決に向けた方策(下線は注意点)	施策・取組みの例など
④	公私の壁をなくした地域ぐるみの子ども・子育て支援	・誰もが望んだ教育・保育を選択できる	<ul style="list-style-type: none"> ・行政から発信する情報に私立・民間(地域)の情報も掲載⇒選ぶのは利用者 ・市主催・協賛イベントを、園の公私に関係なく公平に開催 ・私立or公立に関係なく、桑名市の子どものための支援を ・私立・公立が同額の保育料で運営できるだけの財政支援を 	
⑤	多様な情報提供のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページや広報には、私立や地域住民の活動の情報が載っていない ・役場や支援センターなど特定の施設に行かないと情報を得られない ・魅力を伝えきれていない情報提供の担当者にも問題あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページから公立・私立に関係なく情報収集できるように(一覧性) ・スーパーなど市民の生活の一部、行動パターンの範疇で得られるように 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の自由意見に、具体的な解決策の記載が多数あるため、担当部署が実現に向けて検討してほしい
⑥	今後の少子化社会に向けた対策	・日本全体の課題であるが、本市でも今後の児童数の減少が予測される中、その対策を検討(事務局から検討を依頼)	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する子育て支援の取組みの全て ・子どもが多い地域のピンポイント調査 ・多子化地域の情報収集、取組みの分析 	

【分科会の議論を通したまとめ】

- ・市の財政を考慮し、お金をかけず知恵をしぼった工夫が必要である。
- ・保護者、地域、行政それぞれに、「面倒臭い」を乗り越える必要がある。
- ・「お互い様」の意識で気遣い・助け合うことで、信頼できるネットワークを構築する必要がある。
- ・自らが地域や社会の一員であることを認識し、主体的に行動することが安全・安心の居場所づくりにつながる。
- ・必要なものにお金をかけ、不必要なものから割いていく財政運営に努める。

- 整理した課題および解決に向けた方策に関して、全〇回開催した分科会の中で、各委員から次のようなご意見をいただきました。

① 住民同士の信頼に基づく地域の見守り

- 移動手段のほとんどが車なので、世代間が地域でふれあう以前に出会う機会に乏しい。保護者たちからは、地域で見守りをしてほしい、地域住民に子育てについて声かけしてほしいなどを求められている気はするが、その機会がない。
- 地域住民が協働で開催するなど多くの住民が参加しやすい工夫がされていると、地域のつながりを築くのに効果的。
- 地域の見守りに必要なことは、ある程度分かり合える関係性をきちっと作ること。顔や名前がわかる関係性があるのとないのでは、同じあいさつでもまったく重みが異なる。互いにある程度知っている関係を地域で作っていくことが課題。
- おそらく最近では、「知らない人に声をかけられたら、相手にしてはいけないよ」と子どもに言い聞かせている保護者が多いと思う。そんな状況では、地域で声をかけ合ったり、注意したり、助けたりする機会がどうしても減ってしまうと思う。
- 企業などが主催するイベントよりも、地域住民が中心となったものの方が魅力的なものが多い。
- 登下校の見守りをしてくれる高齢者が地域にいるが、どこの活動かわからない。
- 子どもが小さいうちから保護者と地域住民がふれあう機会を重ねていけば、小学校にあがっても子どもに声をかけられるし、地域住民が子どもを叱ることがあっても、保護者とトラブルにならない信頼関係が築けるのかなと思う。
- 何かあった時に、子どもに声をかけるのは地域住民になるので、ある程度関係性があった方が、子どもも安心して大人に頼ることができると思う。
- 松ノ木で高齢者と子どもたちの交流会が特集されていた。そういうモデルケースをもっと紹介した方がいい。
- 具体的な取組みは、あまりハードルが高いものだと続かないと思う。登下校の時間帯に洗濯物を干したり、犬の散歩をしたりして、子どもと会う機会を増やせるように住民がちょっと心がける取組みの方が簡単。特に若い人は面倒臭いと思うだけなので、外での用事をできれば登下校の時間帯に合わせてくださいねと言うだけでも違う。
- 星見ヶ丘では、犬の散歩の際に付ける腕章を配る取組みをしている。腕章をつけていることで地域住民だということがわかり、声をかけても大丈夫だという目印になっている。

② 地域における安心・安全の居場所

- 就園すると子育て支援センターが使えないという不満が多いが、児童館があれば済む話。放課後の小学生の居場所としても必要とされている。お金をかけない方法であれば、学校の空き教室の活用。地域住民も自由に出入りでき、交流できれば言うことなし。
- 学童保育、放課後子ども教室とも連動して児童館を考えていく必要がある。子どもの居場所として必要という点で、保護者にはあまり区別がない。
- 学童保育だけでなく、児童館を希望する人もいる。ただし、平日の夕方に子どもが過ごす場所としてなのか、休日の子どもの遊び場としてなのか、雨の日の遊び場としてなのか、詳細まではわからない。
- 放課後子ども教室は、基本的にボランティアが運営するのだが、そのボランティアが集まらなくて困っている。事業内容が毎年同じなので、子どもたちも飽きてくる。世代交代できないのが悩み。
- 放課後子ども教室は、ボランティアでやろうとするから無理があるのだと思う。有償のやり方でも色々な方法があると思うので、柔軟に考えてやれば、意外としっかりしたものができると思う。考え方自体を変えていくべき。
- 学童保育の指導員の募集をかけても、集まらないことが多い。16時から19時の間に指導員がほしいが、その時間帯に働ける人は限られている。
- 預けられる時間帯をみれば、働く保護者にとって一番安心できるのは学童保育。
- 学校のない夏休みに学童保育のニーズが高い。本当にニーズとして必要なのは1～2年生くらいまでの低学年。
- 児童館、学童保育、放課後子ども教室が混在しているので、それがどう連動しているのか。地域性にもよるし、各家庭の考え方、ニーズにもよる。本当のニーズはどうか。
- 学童保育や児童館の充実は望まれることだが、預ける場所を充実させることだけに偏ってしまうのはどうかと思っている。三世同居を促進する優遇措置の拡充について資料があるが、同居を嫌う人も多いと思うので、同居に限らず、ある程度一定地域内で土地・住宅を取得した場合には税の優遇措置を設けることも1つの手段だと思う。身内が近所に住むことで、互いに助け合うことができる環境を整備することも有効な策だと思う。
- 特に小学校低学年の児童の居場所が課題であり、解決に向けた方向は、学童保育、児童館、放課後子ども教室に加えて、家族で一緒にみる方法なども織り交ぜながら具体的なものに結び付けていけると良い。
- 保育園のような形で学童保育を運営している自治体(豊田市など)もある。
- 高い質を求めるのであれば、塾と同じでそれに見合った対価を払うのは当然だと思う。逆に、とりあえず安全だけを確保してほしいというのであれば、例えば公園に警備員を1人雇って子どもを自由に遊ばせておくのも、選択肢の幅としてはあり得る話だと思う。何を保護者が求めているのか、必要最低限行政としてやらなければいけないのはどこまでなのかをもうちょっと明確にしておかないと、何でもかんでも保護者の要求に応えていくのは厳しいと思う。教育的な質まで求めるのか、必要最低限の安全を確保するのか、まずはしっかり線を引いて考えていく必要がある。

③ 地域のつながり・交流のきっかけづくり

- 地域の子育て力を高めるためには、行政から自治会に働きかけることも必要だと思う。
- 住民同士の関係の希薄化は今後も続くと思うので、人をうまく使うためには、行政からの何らかのアプローチが必要だと思う。
- 子育てサークルは、企画内容の立案、外遊びや野菜づくりの場の確保などに苦労している。休耕田や耕作放棄地はたくさんあるので、貸してくれる協力者を募るようなコーディネートは行政にはお願いしたい。世代間交流や知識の継承にもつながる。コーディネートを必要としているのは未就園児の子育てサークルに限らない。また、子育て支援センターや子育てサークルに最初に参加する時には勇気がある。一緒に参加しましょうと声をかける人が地域にいるのが理想。
- 若い保護者に問題がある。桑名市一斉ごみ拾い運動があったが、そういうところに入っていく若い世代の意識も問題。
- 子ども会にしてしまうと大変かも知れないが、肩肘張らないチームみたいなものがあると動きやすい。草の根的に色んな活動をしている保護者がいる。それらの人達には、決定力も責任能力も人を集める力もあるので、つなげてうまくコーディネートしていけば生まれてくるものがある。
- 保護者は、見守ってほしい、誰かにやってほしいという意識が強い。最近はやってもらって当然で、自分は何もしないという保護者が多いと思う。やってもらうだけではなく、自分に何ができるかを探しながらそういう関係を作っていきたい。
- 多くの人と関わることで気付けると思う。地域の中で交流やつながりを深めることが大事。
- 地域の関係性が良い立教地域は運動会などの行事がすごい。星見ヶ丘の夏祭りもすごい。
- 同じ子育て世代の保護者同士であればハードルが下がる。その交流の肝になるのは、幼稚園や保育園などのコミュニティ。そこを結びつける最初にしておけば、小学校入学後にモンスターペアレントを生まないというメリットがある。保護者同士がつながっていれば、いきなり学校に怒鳴り込む親はいないし、相談できない保護者も減る。
- 子どもの保育園の交流イベントに、地域の人に参加することでより楽しめた。つながりを築く機会となっていた。保育園・幼稚園が果たす役割は大きい。
- 星見ヶ丘の夏祭りは非常にオープンにやられている。地域にこだわって排他的になるのではなく、より多くの人に参加できる姿勢の方が、今後は良いのではないかと思う。地区で固まるのではなく、いろんな人を呼び込む考え方も大切。
- 皆が一緒になって共同でやる企画を立てても良いと思う。そのためには、リーダー的な人が企画を立てて、運営委員会のような形でやらないとなかなかうまくいかない。
- お寺は子どもから高齢者までが集まれる場所。なるべく地域に提供してもらって、そういうところも活用していくことが大事。
- 親が子どもをどうしたいのかがはっきりしないと、交流事業をやってもうまくいかない。中身を精査して根底に何があるのかをはっきりさせないといけない。
- 地域の集まりをつくることは第一の目標だと思うが、地域住民が子どもに声をかけてくれるというのが本当の目的。イベントをやるのであれば、大人と子どもが名前を呼び合えるような仕掛けがあると良い。
- お互い様的大事。

④ 公私の壁をなくした地域ぐるみの子ども・子育て支援

- 一般の人が“地域”という範囲を想像するときに、公立の保育園・幼稚園に比べて、私立は除外されがち。地域の一部とか、地域の子育ての担い手として、最初からカウントされていない傾向にある。私立も桑名市の子どもたちの子育てを担っていることをまず認識していただきたい。
- 私立と行政の協働が不足している。
- 園を開催場所とするイベント等では、公立・私立に公平に機会を与えてほしい。
- NPO、子育てサークル、私立園の園庭開放など公立以外に関する情報提供がほとんどない。利用者は公立・民間に関係なく、興味のあるところに行く。利用者が選べるよう、民間の情報も提供する必要がある。
- 経済的な格差に関わらず、保護者が子どもに受けさせたい教育を受けさせられるような仕組みを作ってもらいたい。
- 私立幼稚園は県の知事部局が所管だから、市が支援をしてはいけないという理由はない。桑名の子どものために公立・私立に関係なく支援をしていこうという気がないといけないと思う。
- 保育料について、桑名市は財政的に余裕がないが、保育園にはかなりの税金を投入している。同じ桑名市の子どもであるにもかかわらず、私立幼稚園に通う子どもにはほとんど税金がかけられていない。
- 平成27年度からは市が所管となり、市が実施主体となって幼稚園教育を担っていく。つまり、私立だろうと公立であろうと、今の保育園と同様に同じ金額となるのが筋。
- 保護者が知りたいのは、制度が変わって保育料がどのように変化するかだと思う。
- 最近では発達の遅れが気になる子が増えており、県がきちんとできていないのであれば、市として子どものために補っていく姿勢が求められると思う。所管がどこかは関係ない話。

⑤ 多様な情報提供のしくみ

- 私立園で行っている地域住民を対象とした子育て支援の情報を市のホームページに掲載してもらえれば、それをみて参加できる人も増えると思う。対象が市民であれば、主催が公立だろうが私立だろうが利用者には関係ない。
- 役場や支援センターなど特定の施設に行かなければ情報を得ることができない。それよりも、スーパーなどに置いてある方がもっと効果的に届く。スーパーなどを巻き込むことが大事。
- 市のホームページから公立・私立に関係なく情報収集できることが1番だと思う。
- 私立園の情報や要望について個々に行政が対応することは難しいと思うが、公立一覧、私立一覧のように一律に平等な条件であれば可能ではないか。特定の園や法人を優遇することにはならない。
- 魅力を伝えきれていない担当者側に問題がある。
- 具体的な提案が自由意見にあるので、この分科会で時間を割く必要はない。担当部局が検討すれば良い。

⑥ 今後の少子化社会に向けた対策

- 私の住んでいる地域は、子どもが4人いる家庭が多い。何故子どもが多いのか、ピンポイントの調査をやってみるのも1つの方法だと思う。
- 他市の少子化対策で良い施策を知りたい。